

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立砥川小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 県の学習状況調査結果の分析と日常の授業での気付きをもとに、知識・技能の着実な定着と主体的な学びを育む指導法の改善に向けて、校内研究を中心に取組を進めていく。 学校での生活と学習の基盤となる落ち着いた、誰もが安心できる学級づくりに向けて、生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実に向けていく。 学校教育の充実には、教職員が心身共に健康で児童に向き合うことが必要である。そのために、さらに業務の効率化や簡素化等から働き方改革を推進していく。
2 学校教育目標	夢と志をもち、夢と志をもち、自ら学び、共によりよく生きようとする砥川っ子の育成 「勤儉力行」 ～たくましく しなやかに～
3 本年度の重点目標	「一心一徳」「異体同心」で ○魅力的で笑顔に満ちた児童を育てる ○魅力的で活気に満ちた教師になる ○魅力的で家庭や地域に愛される学校になる

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「ゴール像が明確で、めあて、まとめ、ふり返りができていると思う」と回答した児童75%以上	・めあてとまとめ、ふり返りの授業を全ての教科で実施するとともに、話し合い活動の充実を図る。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートにおいて、思いやりのある行動や言動ができていると答える児童が80%以上	・自分の行動や言動について考えさせる機会をもつために、定期的に人権教室等を実施し、お互いに認め合う心を育む。	A	・学校評価アンケートにおいて、友達に対して思いやりの気持ちをもって接していると答えた児童が85%の回答であったため、おおむね達成できたと考えられる。来年度も努めていく。	A	・学校行事を見て、思いやりのある行動ができていると感じた。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートにおいて、いじめ防止対策等のための取組について組織的な対応ができていると回答した教員80%以上	・心のアンケートを定期的にとり、気になる児童への観察と言葉かけを行い、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・SCとの面談の働きかけを行う。	B	・ケース会議や生徒指導協議会では、必要に応じて指導の改善を図ることができた。しかし、生徒指導時に全体への共通理解が上手く図れないことがあったので、もう少し改善していく必要がある。	B	・早期発見、早期対応が大切である。いじめがあっても言えない児童もいるので、アンケートなどを取られていることはよい。いじめの早期発見には今後も努力していただきたい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒70%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)70%以上	・行事を通して目標をもち、学級で認め合い、ともに高めあう雰囲気づくりに努める。 ・総合的な学習の時間を通して、地域のことを知り、地域のことを発信できるような学習環境を整える。(地域との連携) ・目標を常に持ち続けることができるように、行事や生活の中で、目標を立て、目標に対して振り返りを行う時間を設定する。	A	・児童アンケートの結果が73%に達した。「児童のよいところを月ごとの生活の話、各クラスでの取り組みを継続的に行ってきたことで、思いやりの気持ちが育ってきた。また、放送による子どもたちの良かったところの紹介や名人カード、ほめほめタイムなど、児童を褒めることを継続的に行ってきたことが成果として表れている。 ・将来の夢についてのアンケート結果も80%以上に達し、将来の夢について前向きに考えているとわかる。	A	・良好な状況を維持していただきたい。 ・月に1回行われている、縦割り活動などもよい取り組みである。
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ●「運動習慣の改善や定着化」 ●「安全に関する資質・能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で300分以上の児童生徒60%以上にする。 ●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・昼休みの運動場や体育館の使用を見直し、運動を楽しんでいる児童を育てる。 ・交通安全教室や長期休業前の指導で事故ゼロを合い言葉にして取り組む。	B	・児童のアンケート結果では、あまり運動をしていなかった児童に対しては効果が見られるという結果になった。また、体育館の開放や運動場のコート整備については概ね高評価であった。 ・交通事故防止については注意喚起を続けていきたい。	B	・最近、児童がマット運動等で手が付けず、けがをするケースが増えていると聞く。また、夏休みはプール以外の運動させることが難しい。学校の中でできることを工夫して行っていただきたい。 ・交通事故が0を維持していることはよいことだが、児童が事故や事件などに巻き込まれないように、防犯対策に取り組んでいただきたい。防犯ブザーの電池の点検なども家庭と連携してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・校務の見直しによる課後の時間確保。 ・校務サーバーの整理を進め、分掌事務や学習教材の共有化を図り、業務の効率化を図る。 ・毎週金曜日を定時退勤日に設定し、実行を促す。	A	・業務の効率化に向けて、データの蓄積、共有化を図ることができた。職員が85.7%(昨年度より+4%)であった。 ・時間外勤務の削減を認識している職員は、79.7%(昨年度+10%)であった。職員の意識改革を図ることができた。 ・12月の時間外勤務は、昨年度23.4時間から今年度10.4時間と削減することができた。	A	・職員の負担軽減を引き続き図っていただきたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○特別支援教育の充実と拡散	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	・個別の指導計画及び特別な教育課程の詳細な立案。 ・全職員で児童の情報共有と指導の方向性の確認を行う。 ・7月末に職員研修を実施し、インクルーシブ教育の視点で通常の学級の個別の支援を学ぶ機会を設ける。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の分析と家庭学習の充実を図り、主体的な学びを育む指導法の改善に向けて取り組んでいく。 学校での生活と学習の基盤となる落ち着いた、誰もが安心できる学級づくりに向け、生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実に向けていく。 学校教育の充実には、教職員が心身共に健康で児童に向き合うことが必要である。そのために、さらに業務の効率化や簡素化等から働き方改革を推進していく。
--------------------	--